



月に願いを

小松 久恵 (こまつ ひさえ)

大阪外国語大学非常勤講師

夫の健康と長寿を祈る日

二〇〇六年は、一〇月一〇日がカルワー・チヨウトの日だった。この日北インドでは、上層カーストを中心としたヒンドウーの妻たちが、夫の健康と長寿を願ってヴラタをおこなう。ヴラタとは沐浴や断食をすることです。身を清め、神を想いながら一日を過ごすことをいう。女性たちは夜明けと同時に断食を始め、一日中水すら口にせず夜が来るのを待つ。夜になり月が昇ると、^{きよ}越

しにその月を眺めて礼拝をおこない、水を満たしたカルワー(素焼きの器)を月に奉納して断食は終了する。断食後に女性が初めて口にする水は、月を映した水盆から夫が手ずから飲ませることになっている、と聞いたこともある。

妻が夫の健康と長寿を祈り、夫は妻の献身に感謝する。夫婦愛を象徴する美しい祝祭だと思っていたが、その思いを幻想だと笑い飛ばすかのような記事を目にした。伝統的な祝祭も風習も、時代とともに

に変わっていく。そんな記事が掲載されたのは、デリーの最大発行部数を誇るヒンディー紙においてである。

妻たちの不満

「カルワー・チヨウトが夫婦の争いの原因」という記事によると、カルワー・チヨウトが、夫婦が互いへの愛情と信頼を保つていくための伝統的な祝祭であったのも今はむかし。今やすっかり近代文化に汚染されてしまっているそうだ。

たとえば、女性保護協会の会長ヴァンダナー・シャルマーは次のように指摘している。「最近、女性たちのなかに、夫婦不仲の原因としてカルワー・チヨウトを挙げている人がいます。ヴラタをおこなって丸一日ひもじい思いに耐えたのに、夫から何も贈り物がもらえなかったことを、妻たちは夫の愛情不足、あるいは自分を尊重していない、ととらえるようになったからです」。

このような争いはミドルクラスの家においてのみ見られるそうだ。裕福な家庭では、女性たちはこの日、高価なサリーや香水、アクセサリーなどをプレゼントしてもらうことができる。忙しくて何も買えなかった場合でも、夫は現金でその埋め合わせをする。けれどミドルクラスの家庭では常に金銭的な問題を抱えているため、夫たちの大半は妻にプレゼント

を買う余裕がない。しかも妻の方も、ちょっとした贈り物だけでは満足しなくなっているのだ。

この記事によると、夫の長寿を祈るといふ本来は無私の行為が、見返りを求めるためのパフォーマンスに変わっている。ヴラタが「神と自分との対話」ではなく、「夫を含んだ周囲へのアピール」の道具となっている。この状況を、記事を書いた記者のように「近代化の影響」とみなすことも可能である。また拝金主義、物質主義という観念から分析することも可能だろう。同時に、これまで何世紀にもわたってインド社会にドツカリと存在していた、滅私や献身といった「理想の妻像」に対する女性側からの反乱、と読むこともでき、わたしなどはいっそ小気味良さをおぼえたりもした。

苦勞を誇りに

当然ながらこういった風潮が全ての女性に当てはまるわけではない。

地域の小さな美容院で働くラージュニーは、結婚一年目だ。はじめてのカルワー・チヨウトについて訊ねると、「一日中何も食べちゃいけないのよ、水も飲めなくて大変なんだから」と顔をしかめてみせながらも、どこか誇らしげに話してくれた。四人の子どもをもつパールヴァティは、いわゆるダリト(被抑圧階層)の出自であ

る。「大切な日なのよ、この日のために綺麗にしなくちゃ」と四〇代の彼女が、まるで娘のようにしゃやっていたのが印象的だった。髪をきれいに染め、新しい化粧品を買って、彼女はいそいそと祝祭に備えていた。

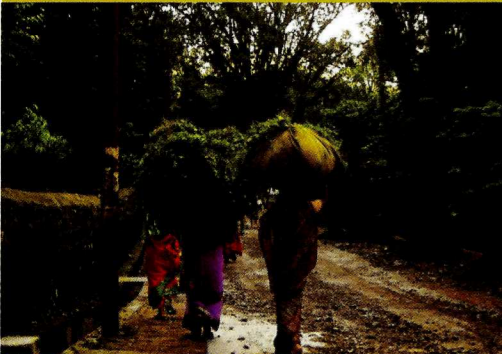
実際にわたしが見聞きしたこれらの例から、カルワー・チヨウトの本来の姿は今や、労働者階層の、あるいはダリトの女性たちのあいだにこそ見ることができただ、と論じることも可能だろう。そのことを、上層クラスの文化を下層クラスが模倣する「サンスクリット化」という概念にあてはめて、理解することもできる。けれどその概念だけで、ラージュニーやパールヴァティにとつての「カルワー・チヨウト」を語ることはできるだろうか。ラージュニーは断食にともなう苦勞を嘆いてみせながらも、その声と表情にあらわれていたのはヴラタをおこなうことに対する誇りだった。パールヴァティにとつてのカルワー・チヨウトは、辛い断食の日ではなく、夫婦の愛情を確認する晴れがましい日を意味しているのである。

今年のカルワー・チヨウトは一〇月二十九日。今もこの先も、カルワー・チヨウトの日が近くなるとわたしの胸によぎるのは、ものごとを分析的に理解するための議論や概念よりも、ラージュニーやパールヴァティの誇らしげな笑顔である。月に願いを。彼女らに、幸福を。

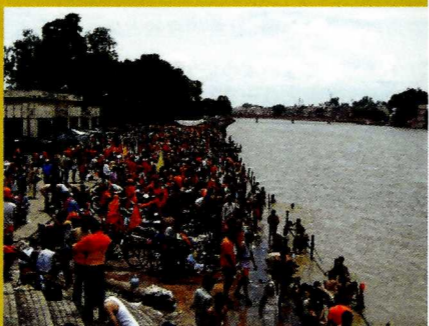
聖地にて夕方の礼拝。
神へ祈りを捧げる女性



聖地での礼拝時間。
階層によってはいつもと同じ労働の時間だ



ガンジス河の聖なる水を汲むために、
8月、国中から信者が集まる



聖なる河へ捧げる
花と灯明

